

社会技術研究開発事業  
平成22年度研究開発実施報告書

研究開発プログラム

「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」

研究開発プロジェクト

「ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり」

研究代表者：小川 晃子  
(岩手県立大学 社会福祉学部 教授)

## 1. 研究開発プロジェクト名

ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり

## 2. 研究開発実施の要約

### (1) 研究開発目標

本プロジェクトは、独居高齢者等の社会的孤立の問題に対応し、生活支援型のコミュニティづくりの実証的検証を目指す。これまで岩手県立大学が岩手県等と連携して取り組んできたICT（情報通信技術）を活用した高齢者安否確認見守りシステムを基盤として、家庭用固定電話機から「4. 話したい」ボタンを24時間365日押せる体制を整備し、地域の互助機能の組織化を図ることにより、高齢者の身体的・心理的異変や、買い物・外出などの生活支援に対応できる情報の流れとコミュニティにおける支援体制を開発し、その有効性を検証するとともに、持続可能な取り組み成果を地域に残そうとするものである。

### (2) 実施項目・内容

- ①学際的体制の構築と運営
- ②仮説の構築
- ③職際的フィールド体制の構築と運営
- ④実証実験
- ⑤効果検証
- ⑥報告書作成と結果公開
- ⑦プロジェクト終了後の持続可能な方策の検討

### (3) 主な結果

#### ①365日24時間「話したい」ボタンを押せる体制整備

基盤となるシステムの運用とは別に、夜間・休日のみまもりセンター、及びコミュニティの特性に応じたみまもりセンター（市町村社会福祉協議会の下に位置づけることになるので「サブセンター」と呼称している）を立ち上げ、高齢者が「4. 話したい」ボタンを365日24時間押せる体制を整備した。

#### ②コミュニティにおける支援体制の開発

各フィールドで、民生委員協議会・町内会等と協議を重ね、問題意識の共有化を図り、協力意向を得て、生活支援方策の開発に着手した。

#### ③高齢者の身体的・心理的異変や、生活支援に対応できる情報の流れの整備

独居高齢者の異変把握のために、人感センサーと緊急通報システム、及びおげんき発信を使い分ける方法と、地域のネットワークにおける情報共有方法を検討した。また、生活支援ニーズ等に対応するために、情報システムを整備した。

以上により、各フィールドにおける社会実験と効果検証のデザインを進めた。

## 3. 研究開発実施の具体的内容

### (1) 研究開発目標

本プロジェクトが解決すべき問題として対象とするのは、「高齢者の社会的孤立」である。この背景には、長寿化・家族の変容などにより、独居高齢者の増加、そのなかでも後期高齢期の一人暮らしの増加があるが、特に岩手県を含む北東北は過疎化・高齢化の進展により、コミュニティ全体が高齢化し地域社会の支えあう関係が脆弱化している。これに

加えて、高齢者の遠慮がちな生活様式や意識的な要因が背景となり、高齢者の社会的孤立の問題が重複・複合化している。

社会的孤立は「孤独」の問題や「生活支援ネットワークの欠如」といった問題を引き起こす。孤独の問題の指標の1つに「自殺」があるが、北東北は全国的に比較しても自殺率が高い。本プロジェクトでは自殺防止も解決すべき問題としている。生活支援ネットワークの欠如の問題は、公共交通機関が未整備の過疎地や地方都市のいわゆる“買い物難民”等である。エレベーターのない集合住宅や空洞化した都心に居住している高齢者も同様である。本プロジェクトでは、こうした社会的孤立が引き起こす問題も、解決したいと考えている。

高齢者の社会的孤立を解消するためには、その背景となっている「高齢者の遠慮感やそれによりもたらされるライフスタイル」や、「コミュニティの支えあう関係の脆弱化」も問題の対象としてアプローチする必要がある。

高齢者の社会的孤立の問題は、人口減が著しい過疎地ではすでに顕著になっているが、地方都市においても今後の急速な高齢化に伴い大きな問題になることは明らかである。特に、大型店の郊外への進出に伴い商業機能が空洞化しはじめている都心においては、マンションや市営住宅などの集合住宅を中心として顕在化してきている。また、高度成長期に開発されたニュータウンの人口減・高齢化は近年著しくなっており、孤立死も増加している。

高齢者の社会的孤立とその背景及び影響をそれぞれ問題としてとらえる根拠は、岩手県立大学が岩手県等と連携し取り組んできたICTを活用した見守りシステム構築の実証実験と調査において、一定の成果を得られていることも根拠となる。毎日の能動的な“おげんき”発信は高齢者の遠慮がちな心理やライフスタイルを変容し、コミュニティにおける見守りの意識化や情報の共有は、地域の互助機能の再構築につながってきている。

こうしたことを背景として、プロジェクトでは、独居高齢者を主とする高齢者の社会的孤立の問題に対応し、生活支援型のコミュニティづくりの実証的検証を目指し、これまで岩手県立大学で岩手県等と連携し取り組んできたICT（情報通信技術）を活用した高齢者安否確認見守りシステムを基盤とし、岩手県立大学5学部を中心とする研究者18名による7つの研究グループによるプロジェクト体制を構築し、高齢化の進展する岩手県内地域の現状と生活支援ニーズを調査し、科学的根拠に基づき分析・把握し、仮説検証を行う。

この学際的研究メンバーが、行政（岩手県・盛岡市・滝沢村）・社会福祉協議会（岩手県社協・盛岡市社協・宮古市社協川井支所・滝沢村社協）との連携のもと、4つのフィールド（都心型・ニュータウン型・郊外スプロール型・限界集落型）における民生委員協議会や社会福祉・医療の専門的な機関・組織、町内会などの住民組織やボランティア組織、宅配便や配食サービスなどのサービス提供事業者、及び老人クラブなど的高齢者相互支援型の団体、さらに大学生によるボランティア組織など、地域の多様な関与者の協働による職間的な体制で実証実験を行う。

実証実験は、家庭用の電話機から「4. 話したい」ボタンを24時間365日押すことができる体制を整備し、地域の互助機能の組織化を図ることにより、高齢者の身体的・心理的異変や買い物・外出などの生活支援に対応できる情報の流れとコミュニティにおける支援体制を開発し、その有効性を検証し、持続可能な取り組み成果を地域に残そうとするものである。

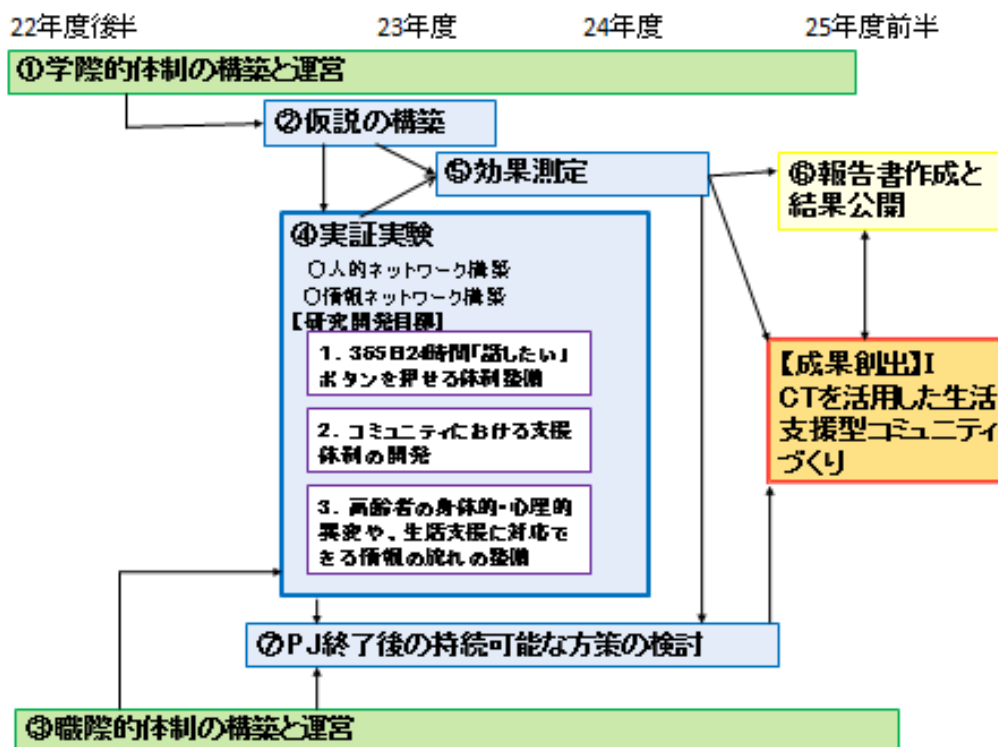
実証実験の効果と評価を測定するための指標は、研究グループごとに仮説をもとに選定

するが、フィールドごとの検討会議やプロジェクト全体会議・シンポジウム・ワークショップ等においても検討・検証することで、学際的・職際的知見の体系化を図り、持続可能な取り組みへとつなげていくことを目標とする。また、本プロジェクトの成果は、青森県社会福祉協議会や横浜市公田団地の取り組みと連携しているが、さらに他地域へも広報し広く理解を促すことにつなげていくことを目指す。

## (2) 実施方法・実施内容

当初の計画表に記した7項目の実施方法と成果創出の関係は、次図の通りである。実際の工程においては、Plan Do Seeで行きつ戻りつがあるが、この図ではおおよその時間軸を記載している。

研究開発の実施と成果創出の流れ



以下は、上記した手法①から⑦ごとに、平成22年度の実施内容を記す。

### ①学際的体制の構築と運営

研究開発実施者全員で構成する全体会議を月1回（3月は震災で中止）開催し、プロジェクト全体の情報共有と推進体制を確立した。また、高齢者自立支援策とコミュニティ支援策、及びICTを活用した高齢者の生活支援策の3つの研究グループは、ほぼ月1回の研究会を開催した。フィールドに関わる検討は、当初3つの研究グループ会議を月1回実施する予定であったが、研究代表者が主となりフィールドとの連絡調整を行ったために、合同での研究会を1回実施し、フィールドに関わる情報は全体会議で共有し検討した。こうした検討を通して、下記する「②仮説の構築」「④実証実験」「⑤効果測定」の企画を行った。

これに加え、持続可能なサービス提供のあり方研究グループでは2回研究会を開催し、下記「⑦プロジェクト終了後の持続可能な方策の検討」を企画した。



図1. 全体会議の様子

## ②仮説の構築

高齢者自立支援策とコミュニティ支援策の1つの研究グループは、社会実験を通して高齢者とコミュニティの変化を把握するための指標の検討と、事前（ニーズ）調査及び下記する④実証実験の設計と、⑤効果検証方法の検討を実施した。

## ③職際的フィールド体制の構築運営

持続可能なサービス提供の在り方研究グループで検討をし、岩手県・岩手県社会福祉協議会、4フィールドの行政・社会福祉協議会、みまもりセンターを依頼する機関等の、地域の多様な関与者を交えた研究会を2回開催した。プロジェクトの進捗状況を提示し情報の共有化を図るとともに④実証実験への協力体制を構築した。計画書の段階ではこの研究会を月1回開催としていたが、コミュニティにおける生活支援策の検証が開始できる段階ではないため、2回の開催に集約した。



図2. 地域の関与者の参加を得た「持続可能なサービス提供の在り方研究会」開催の様子

## ④実証実験

(ア) 人的ネットワーク構築

ア) みまもりセンターの立ち上げ



基盤となる高齢者安否確認見守りシステムでは、市町村社会福祉協議会がみまもりセンターとなっている。本プロジェクトでは、365日24時間「話したい」ボタンを押せる体制を整備するために、夜間・休日のみまもりセンターと、コミュニティの特性に応じたサブセンターを開設した。

夜間・休日の見守りセンターを青森県社会福祉協議会に開設した。

また、コミュニティの状況に応じた見守りセンターを、滝沢地区では学生ボランティアセンターに、松園地区では社会福祉法人育心会介護支援センターに、桜城地区では盛岡駅西口包括支援センターに開設をし、見守りと生活支援を行うための準備を行った。

4フィールドそれぞれの民生児童委員協議会や町内会等と話し合いを重ね、プロジェクトの問題意識を共有していただき、協力者（高齢者）の選定・依頼に入った。

#### 1) 地域の互助機能の組織化・コミュニティにおける支援体制の開発

以前より高齢者安否確認見守りシステムを稼働している川井地区においては、協力者に今後のプロジェクトの取り組みを説明し、協力意向を得た。これ以外の3フィールドにおいて、民生児童委員協議会・町内会連合会等の関与者と話し合いを重ね（松園地区6回、桜城地区3回、滝沢地区12回）、プロジェクトの取り組みへの理解を図り、協力意向を得た。滝沢地区では、平成23年1月に別の研究費を活用して独居高齢者の社会的孤立に関する調査を実施し、3月に3地区の民生委員協議会でその結果を説明し、検討するミニワークショップを行うことにより、生活支援型コミュニティづくりへの取り組み意欲を喚起した。



図3. 滝沢村民生児童協議会の地区会議での説明・検討状況

#### (イ) 情報ネットワークの構築

##### ア) 高齢者安否確認見守りシステム（おげんきシステム）の機能整備

###### ○生活支援システム対応機能の整備

これまでのおげんき発信は電話機の1番から4番までを利用していた。生活支援システムの整備にともない、生活支援を要請する機能を電話機の5番ボタンに割り当てるためプログラムの改修を行った。この改修により、利用者は従来の4番(話したいボタン)でみまもりセンター職員との連絡をとることとは別に、生活支援を要請できる組織へ直接連絡することが可能となった。5番ボタンにどのような組織を割り当てるかは個々の見守りセンターで決定することができる。みまもりセンターが生活支援も実施する場合には異なる番号を4番と

5番に登録し、見守りに関わる連絡と生活支援の要請を区分して受信することができる。

#### ○コールセンター対応機能

おげんき発信の24時間365日対応を実現するため、休日・夜間対応のコールセンターを設置することに対応するため、おげんきシステムと連携して稼働するコールセンター向けのサブシステムを整備した。このシステムは夜間等の4番（話したいボタン）をコールセンターに転送するとともに、発信者の特徴的な情報をコールセンター職員に同時に送信・表示することができる。この仕組みによりコールセンターでの高齢者対応をより有効にすすめることが可能となった。

#### 1) 生活行動感知センサー等による見守り実施のための環境整備

これまで取り組んできた高齢者の能動的行動である電話機利用による“おげんき”発信は、一定層では加齢にともない発信が困難になり、安否を確認する代替手段が必要となることが認識されていた。そこで人感センサーによる安否確認に着目し、この課題に対応し、多様な安否確認システムを整備することとした。また、センサー導入に関連してフィールドでの情報収集を進める中で、加齢の進行に伴う補完する手段としての活用ではなく、能動的なおげんき発信の未発信者の動静把握にセンサーを活用できないかとの提案があり、その対応に係る検討も合わせて実施することとした。今年度での生活行動感知センサー等に関連する実績は以下の通りである。

#### ○生活行動感知センサーの設計・開発

生活行動感知センサー本体と情報通信ユニットの設計と開発を実施した。

#### ○センサー情報管理システムの基本設計

上記のセンサーからの情報を収集し、センサーでの見守り者の状況判断を行う情報システムの基本設計を実施した。構築する情報システムはおげんき見守りシステムとの連携等を考慮し、Webベースのシステムとした。

#### ○センサーのおげんき発信未発信者の動静確認への適用に関する基礎的検討

おげんき発信の未発信者の動静（活動できる状態で住居内にいる）に利用するニーズは宮古市川井地区で提起された。川井地区は過疎化の進んだ山間部に住居が点在する地区である。おげんき発信では同時に未発信者の動静を確認することが手順の1つであり、電話等での確認が不可の場合は、民生委員や社協職員、隣人等が高齢者の居宅を訪問して確認を行うことになる。しかしながら、川井地区は孤立住居が多く、隣家での確認が難しく、社協職員等が確認に向くと場合によっては半日程度の業務となる。このため、センサーによる動静把握が求められた。今年度はニーズが明らかとなった後に以下の2点について基礎的な検討を実施した。

#### ・解放型住宅でのセンサー利用の適否の検討

生活行動感知センサーを利用した安否や動静の確認では、(a)費用とのトレードオフや居住者のプライバシー確保の観点からも住居内に設置できるセンサー数には限界がある、(b)センサーの誤作動やノイズの発生もあり、センサー情報の判読精度を高めるためには、居住者が住宅内に「いる」、「いない」が確実に把握できることが重要となる、という、相反する2つの条件の調和が重要となる。(b)の条件は集合型住宅など出入り口が1つの住居形態では容易であるが、川井地区の住居構造、生活様式からはこの条件を満たしがたい。このため、設置するセンサーの組み合わせ、数量、情報処理手順等を検討し、一定の条件下で動静判断が可能となる仕組みの検討を実施した。

・情報伝送手段のサーベイ

センサーの利用に際しては、センサーを設置した住居から発生したセンサーデータをどのように処理サーバへ送るかが問題となる。川井地区では国道(106)沿線以外では携帯電話の通信も不可な場所が多い。このため、センサー情報の集信方法が問題となる。光ケーブルはTVの難視聴対策で整備されてはいるが、インターネット契約がなされている独居高齢者は非常に少ないと考えられる。このような状況では、「センサーによる居宅内の動静情報」という非常に小さい情報量を安価に送信する手段がないことが判明した。インターネット契約を締結しても、プロバイダー費用を含めた月額費用は数千円となり、この手段によるデータ伝送は事業の継続性を担保するとの視点からは採用できない。今年度は上記した現状を確認したのちに、対応方策として対象者の住宅にセンサーと共に安価となっているPCを設置し、FAX通信やダイヤルアップなどの技術をベースとした技術開発を行う方針を設定した。23年度では事業継続性を担保する視点からこの検討をもとにデータ伝送手法の開発を加える。

り)見守りセンターおよびコールセンター機材等の調達

見守りセンター向け PC およびソフトウェア等の調達と、コールセンター向けの各種機材・備品等の調達を行った。

⑤効果検証

協力者（モニター）を対象として、事前調査を実施するために、準備を重ねた。事前調査の調査票は、第2及び第3グループの検討により作成が完了した。

調査実施は、計画段階ではプロジェクト開始時点で速やかに協力者を確保した上で事前調査を実施し、さらに平成22年度末に1回目の中間調査を実施する予定であった。実際には、平成22年12月8日に川井地区の高齢者を対象とした予備調査と、平成23年1月に滝沢村の独居高齢者を対象とした調査(実施費用はたきざわGP助成)を実施しその結果をまとめたが、それ以外の調査については、次の2つの理由で23年度前半まで実施を延期することになった。1つめの理由は、民生委員等の地域の関与者の理解と協力を得るために予想以上の時間が必要であったことである。2つめの理由は、2度にわたる災害（年始年末の雪害、3月の震災）による影響である。

いずれの地域も民生委員協議会等との信頼関係の構築ができたために、協力者選定への目はすでにたっており、23年5月から6月にかけて調査実施を行う予定である。

また、当初の計画書には記載していなかったことであるが、領域アドバイザーのご教示を受け、プロセス評価を実施した。1つはプロジェクトの記録化を図った。これは、今後の記録とともに分析する予定である。2つめは、23年3月に滝沢村の民生委員に独居高齢者の調査結果を報告する際に、プロジェクトと連携して取り組むことへの評価調査を実施した。

⑥報告書作成と結果公開

⑤に記したように効果検証が災害等で遅延しているため、報告書の作成は23年度前半までずれ込んでいる。しかし、滝沢村においては1月に独居高齢者の調査を実施したので（実施費用は別研究助成）その結果をもとに3月に滝沢村の民生委員協議会の3地区での会議の際に、調査分析結果を報告し、それをもとに高齢者の社会的孤立や生活支援策について考えていただくためのミニワークショップを開催した。他フィールドにおいては、23年度にずれ込んだ事前調査の結果をもとに、ワークショップを開催する予定である。



#### ⑦プロジェクト終了後の持続可能な方策の検討

③に記したように、地域の多様な関与者との研究会を2回開催し、問題意識の共有化と協力意向の醸成を図った。

また、各フィールドの取り組みの特性に合致した生活支援サービス提供先との連携を視野に入れつつプロジェクトを進めている。具体的には、みまもりのサブセンターを依頼している滝沢地区では学生ボランティアセンター、桜城地区では包括支援センター、松園地区では社会福祉法人育心会のそれぞれの事業との連携である。

### (3) 研究開発結果

#### ①研究開発目標に沿った開発結果

##### ○365日24時間「話したい」ボタンを押せる体制整備

基盤となるシステムの運用とは別に、夜間・休日のみまもりセンター、及びコミュニティの特性に応じた、みまもりセンター（市町村社会福祉協議会の下に位置づけることになるので「サブセンター」と呼称している）を立ち上げ、高齢者が「4. 話したい」ボタンを365日24時間押せる体制を整備した。

##### ○コミュニティにおける支援体制の開発

コミュニティごとの特性に応じたサブセンターを立ち上げ、民生委員協議会・町内会等と生活支援方策の開発に着手した。

##### ○高齢者の身体的・心理的異変や、生活支援に対応できる情報の流れの整備

独居高齢者の異変把握のために、人感センサーと緊急通報システムと“おげんき”発信を使い分けと、地域のネットワークにおける異変情報の共有を検討した。また、生活支援ニーズ等に対応するために、情報システムを整備した。

#### ②平成22年度に設計した各フィールドの社会実験と効果検証のデザイン

##### ○滝沢村

滝沢（郊外スプロール型）では、滝沢村社会福祉協議会がみまもりセンターとなり、社協の有償生活支援サービスと連携しながら、民生委員を中心としたコミュニティづくりを主とする。夜間・休日は青森県社会福祉協議会のセンターに転送する。岩手県立大学周辺の川前地区では別途、大学の学生ボランティアセンターをサブセンターとし、学生ボランティアが以前から行っている高齢者見守り（チャリパト隊）と雪かき等の生活支援の対象者におげんき発信を利用してもらい、見守りと生活支援を行う。

滝沢では、平成22年度に独居高齢者を対象とした社会的孤立と生活困難に関する調査を別の研究費で実施しており、この結果をもとに今後の地域づくりを検討するミニワークショップを民生委員を対象として行っている。これにより、23年度以降の協力者（モニター）を民生委員が選定し、効果を検証していく。

##### ○松園地区

盛岡市松園（ニュータウン型）では、社会福祉法人育心会にサブセンターを設置し、夜間・休日は青森県社会福祉協議会のセンターに転送する。育心会で既に提供している盛岡市からの委託事業である配食や緊急通報システムのサービス、及び法人が独自に行っているヘルパーによる有償生活支援と結びつけて、生活支援を実施する。コミュニティづくりは、自治推進協議会・民生児童委員協議会・町内会連合会と連携をとりつつ行うことになった。

松園での効果検証は、他フィールドより量的・質的に拡大した形で実施する。協力者は民生委員が40名程度選定し、おげんき発信を始める際に事前調査とMMSEを実施する。MMSEは事後調査でも実施し、認知レベルが低いケースは除外して検証する。また、コミュニティの変化を把握するために2つの町内会をモデルとして選定し、全住民を対象とした住民意識調査を実施する際に、事前調査とMMSEの比較コントロール群を設定し、モニター調査と比較する。それにより、より多角的に生活支援型コミュニティづくりを検証可能にする。

#### ○桜城地区

桜城地区（都心型）では、盛岡駅西口地域包括支援センターにサブセンターを設置し、休日・夜間は青森県社会福祉協議会のセンターに転送する。また、一部においてはマンションの管理人室や、買い物支援を行う民間事業者の窓口をサブセンターとして活用し、マンション内での相互見守りや買い物支援等の生活支援に対応できるような体制を検討している。

コミュニティづくりは、自治推進協議会・民生児童委員協議会と連携をとりつつ行うことになった。

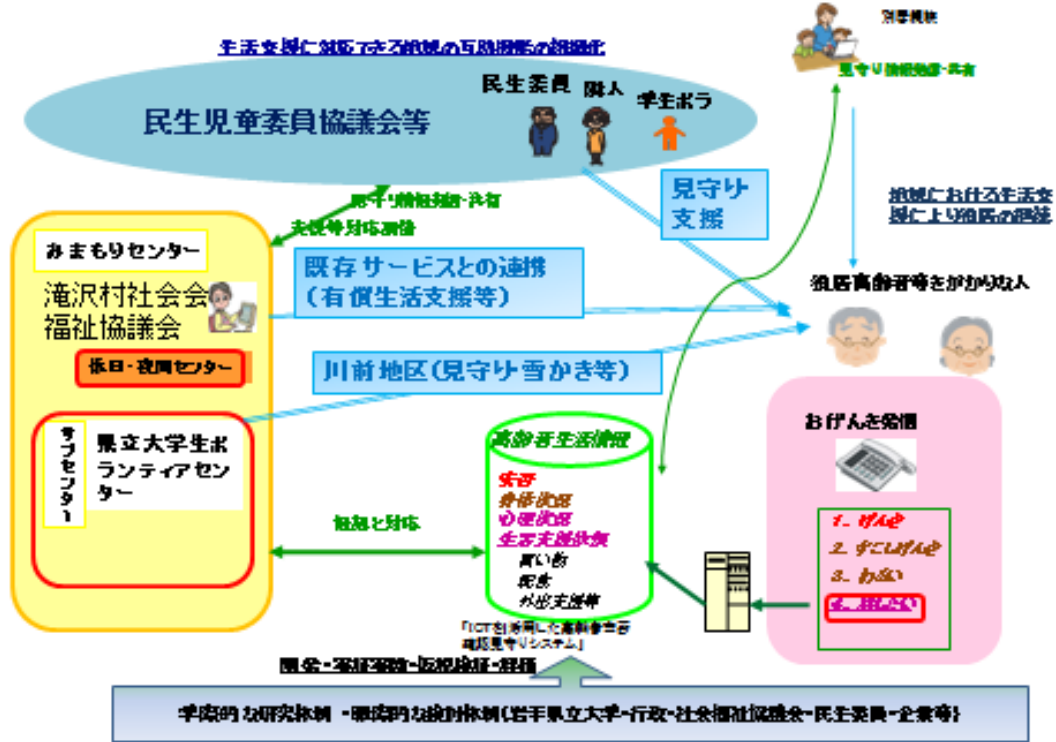
桜城での効果検証は、民生委員が35名程度選定した協力者を対象として、半年に1回の事前調査、中間調査、事後調査を実施する。

#### ○川井地区

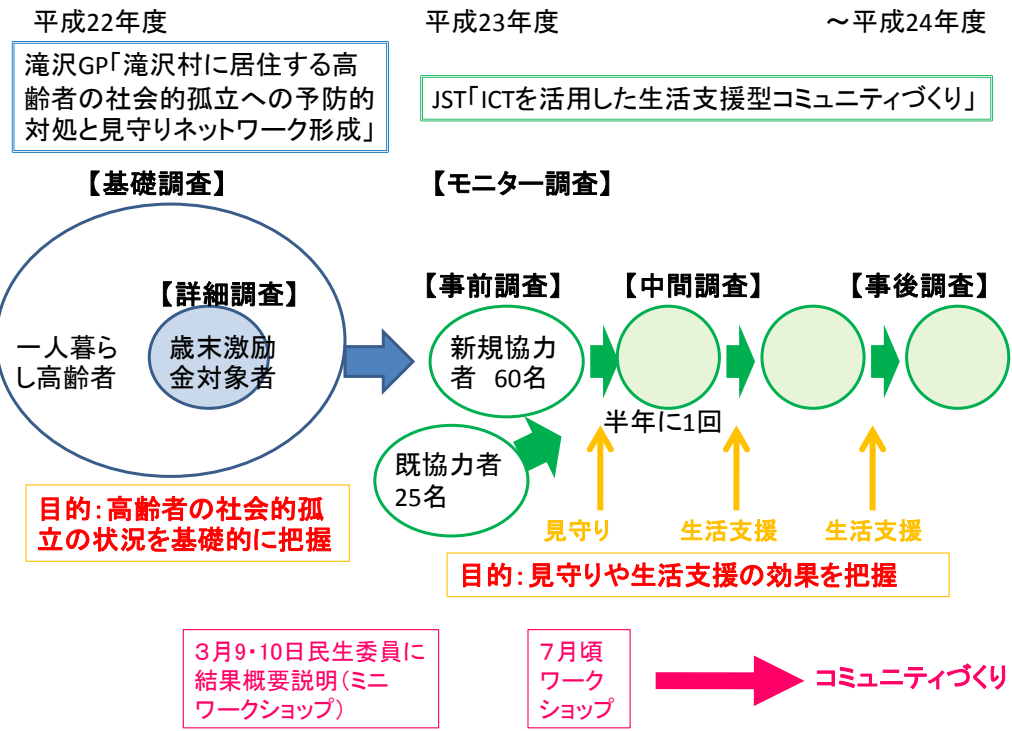
川井（過疎・高齢化進展型）では社会資源が不足しているため、宮古市社会福祉協議会川井支所をみまもりセンターとし、サブセンターは設置しない。川井支所が夜間・休日のみまもりセンター機能も併せもつ。買い物については、移動販売車など民間事業者との連携策を検討する。また、移送については、民間事業者の活用や有償ボランティアなど新たなサービスを開発することも検討している。情報ネットワーク構築部分で前記したように、認知レベルが低下した一戸建ての高齢者の安否確認のために、センサーをお元気発信と使いわけできるよう検討する。

川井での22年度に交通・買い物等の困難度と対応策を予備的に把握することを目的として実施した予備調査に加えて、モニター40名を対象として事前調査・中間調査・事後調査を実施する。

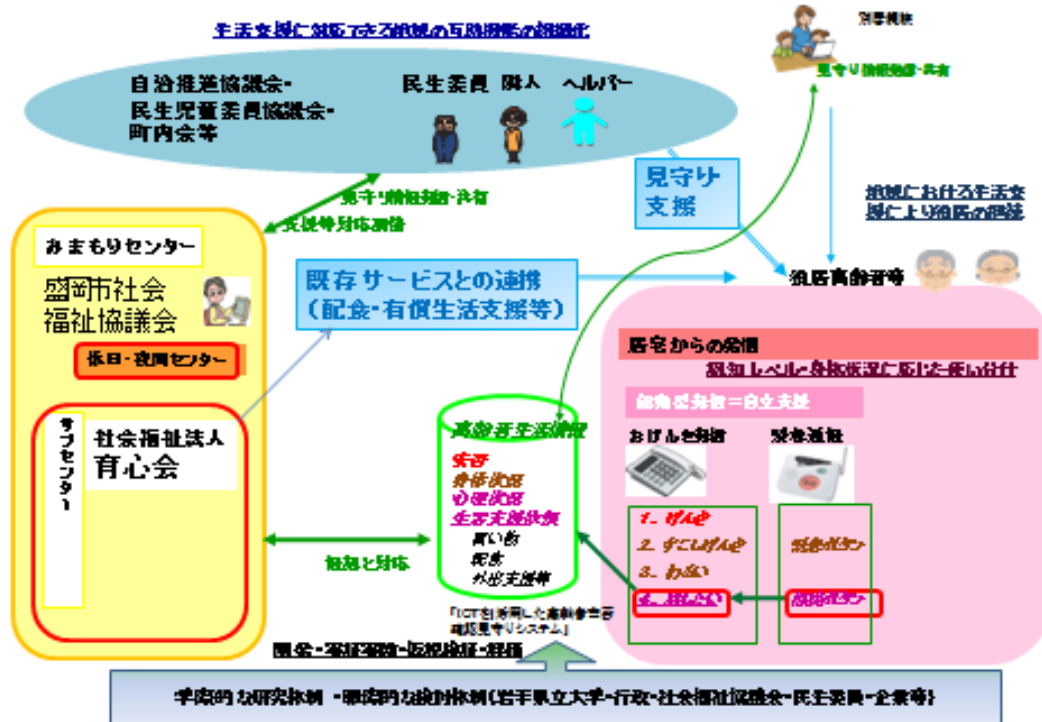
## 滝沢村(郊外スプロール型)における社会実験のデザイン



## 滝沢(郊外スプロール型)における効果検証

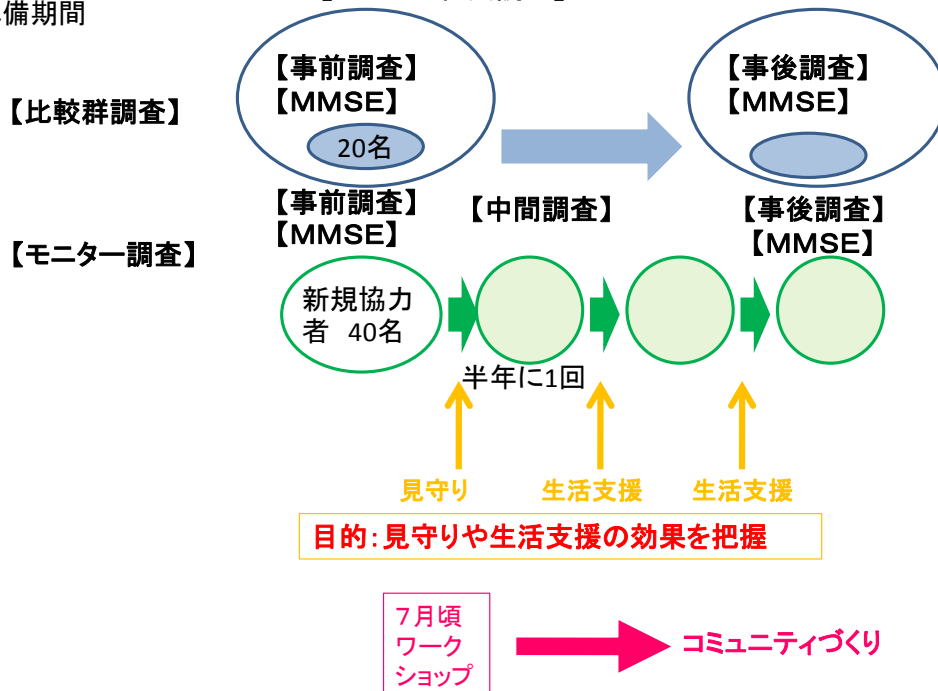


## 松園(ニュータウン型)における社会実験のデザイン

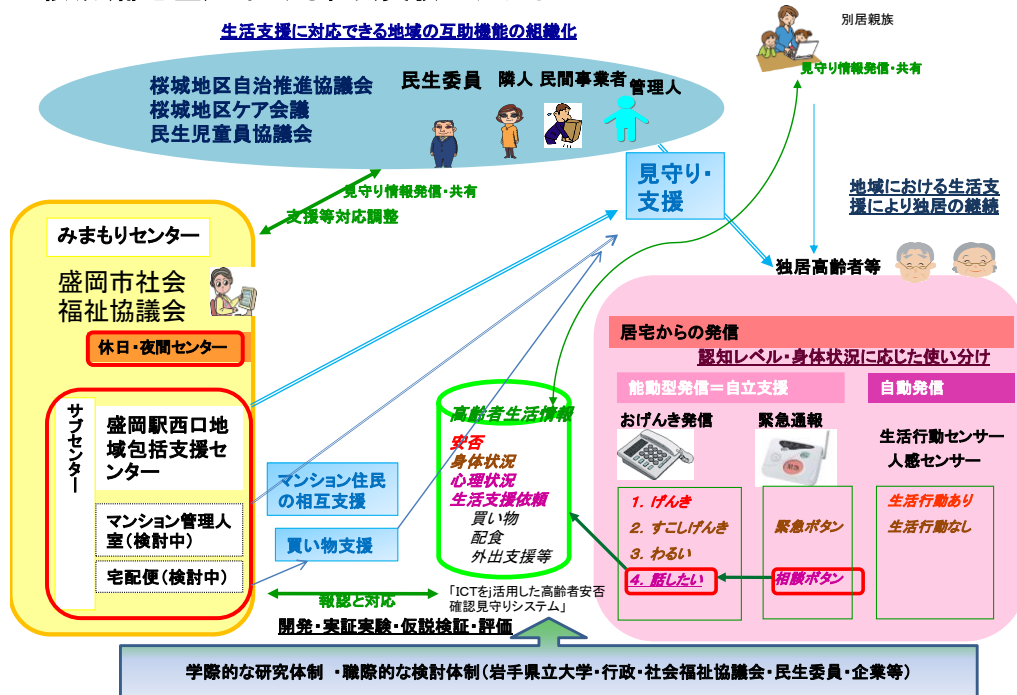


## 松園(ニュータウン型)における効果検証

平成22年度 平成23年度 準備期間 【2地区全住民調査】 ~平成24年度



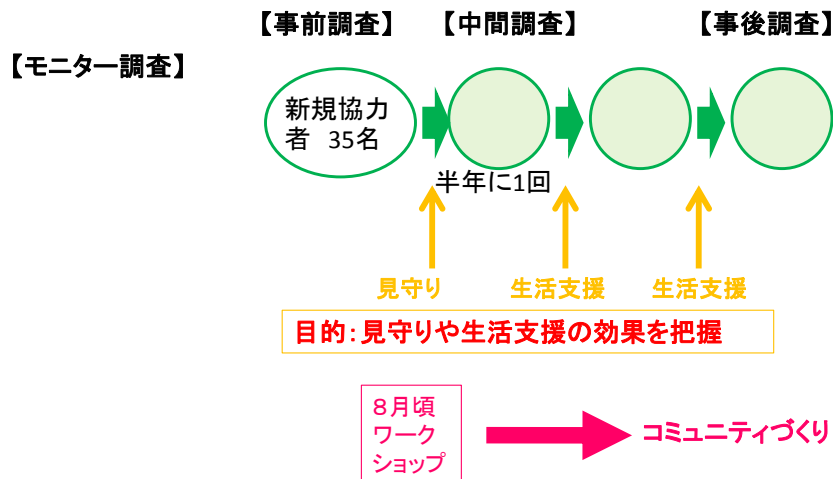
## 桜城(都心型)における社会実験のデザイン



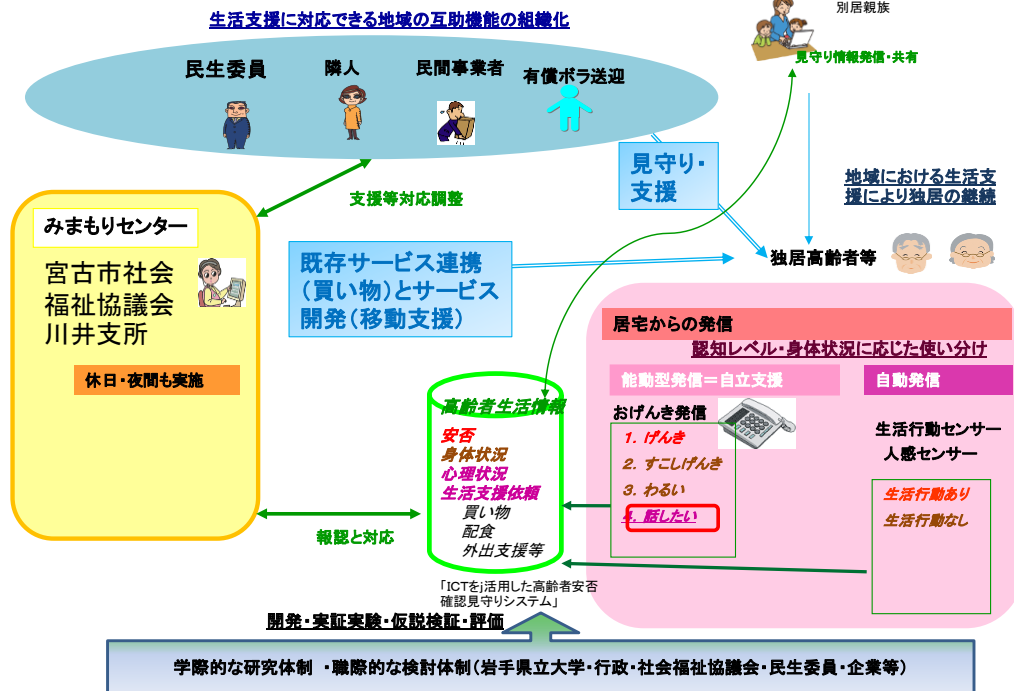
## 桜城(都心型)における効果検証

平成22年度 平成23年度  
準備期間

～平成24年度



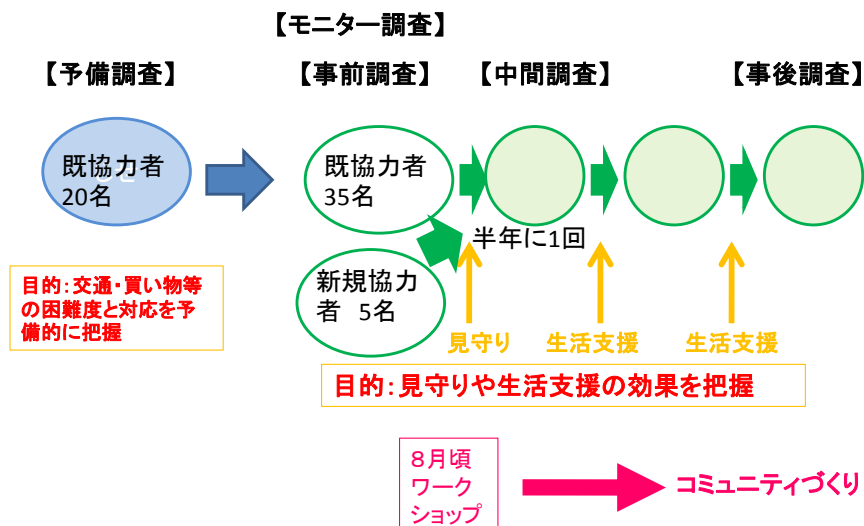
## 川井(過疎・高齢化進展型)における社会実験のデザイン



## 川井(過疎・高齢化進展型)における効果検証

平成22年度 平成23年度

～平成24年度





### ③平成22年度調査結果（抜粋）

平成22年度調査で明らかになった結果について、そのポイントを簡単に記しておく。まず、滝沢における生活困難度についてである。平成22年度1月に実施した独居高齢者の回答をみると、「生活費」「買い物する店」「災害時の避難」の順でニーズが高く、生活支援が必要になったことが明らかになった。

表1. 生活支援ニーズ滝沢村独居高齢者の調査結果

| 項目名<br>(全体の順位別) | 全体<br>n=882 | 基礎調<br>査<br>n=800 | 詳細調査    |       |       |       |
|-----------------|-------------|-------------------|---------|-------|-------|-------|
|                 |             |                   | 計       | 南部    | 中部    | 北部    |
|                 |             |                   | n=82    | n=25  | n=19  | n=38  |
| ⑩生活費が足りない       | 24.8%       | 25.3%             | > 20.7% | 40.0% | 5.3%  | 15.8% |
| ②近所に買い物する店がない   | 21.1%       | 20.4%             | < 28.0% | 20.0% | 31.6% | 31.6% |
| ⑫災害時の避難         | 19.3%       | 18.6%             | < 25.6% | 16.0% | 31.6% | 28.9% |
| ⑮その他            | 18.7%       | 19.3%             | > 13.4% | 16.0% | 21.1% | 7.9%  |
| ①バスや車を使って出かける   | 13.9%       | 13.5%             | < 18.3% | 4.0%  | 26.3% | 23.7% |
| ⑪防犯             | 11.6%       | 11.8%             | 9.8%    | 8.0%  | 10.5% | 10.5% |
| ⑤役所や銀行の手続き      | 10.7%       | 10.8%             | 9.8%    | 4.0%  | 10.5% | 13.2% |
| ⑥役所からのお知らせを読む   | 9.0%        | 9.0%              | 8.5%    | 12.0% | 5.3%  | 7.9%  |
| ③掃除や洗濯・ゴミ出し等家事  | 7.7%        | 7.1%              | < 13.4% | 20.0% | 15.8% | 7.9%  |
| ⑦病院に行く・薬とり      | 7.3%        | 7.4%              | 6.1%    | 4.0%  | 10.5% | 5.3%  |
| ⑭家族・親族の人間関係     | 7.3%        | 7.5%              | 4.9%    | 8.0%  | 5.3%  | 2.6%  |
| ④食事作り           | 6.2%        | 6.4%              | 4.9%    | 0.0%  | 10.5% | 5.3%  |
| ⑬近所付き合い         | 6.0%        | 6.1%              | 4.9%    | 4.0%  | 10.5% | 2.6%  |
| ⑨相続や財産管理        | 5.7%        | 5.9%              | 3.7%    | 8.0%  | 0.0%  | 2.6%  |
| ⑧家族の看病・介護       | 3.5%        | 3.9%              | 0.0%    | 0.0%  | 0.0%  | 0.0%  |

注) 調査実施は別研究助成（たきざわGP）による。

3月9日と10日の3地区における滝沢村民生児童委員の月例会議で、たきざわGP調査結果概要を説明した後に、こうした地域づくりを県立大と連携して行うことへのプロセス評価を出席した88名の民生児童委員から回答を得た。

1の調査の実施に関わったのは54名で、その方々に取り組みへの評価を設問した結果、「調査対象者への理解が深まった」43件（79.6%）、「自分の担当地域に対する理解が深まった」41件（75.9%）、「民生委員活動の具体的ヒントを得た」38件（70.4%）、「民生委員としての活動に不安や悩みが増えた」21件（38.9%）という結果であった。概ね、調査の実施に関わることを前向きに評価されていることがわかる。

次に、調査の結果を聞き、どのように感じたかを5項目全員に設問した結果、「滝沢村の高齢者の状況に対する理解が深まった」80件（90.9%）、「民生委員活動の具体的ヒントを得た」67件（76.1%）、「民生員としての活動に不安や悩みが増えた」36件（40.9%）、「高齢者への支援や取り組みについて民生委員同士で検討することが必要だと思った」69件（78.4%）、「高齢者への支援や取り組みについて住民の力をはぐくみネットワークをつくることが重要だと思った」79件（89.8%）という結果であった。ここでも、調査結果を今後の地域ネットワークづくりに活かす方向での回答が大多数である。

最後に、岩手県立大学が村や社会福祉協議会と連携して地域づくりに取り組むことへの評価を全員に設問したところ、「地域で起きている問題や課題を調査で客観的に把握する

ことが重要だとわかった」82件（93.2%）、「大学が分析をした地域の実態や課題を、民生員などの実践活動に活かすことができると思った」72件（81.8%）、「民生委員活動などの実践活動との連携が、大学の教員や学生の研究や教育に役立つと感じた」71件（80.7%）という結果であった。おおむね連携についてのご理解を得ることができていると考えられる数値であったが、いずれの項目も1・2割の否定と態度保留がある。今後の取り組みを経て、この回答がどのように推移するかもあわせて検討を続けていきたい。

#### （４）会議等の活動

| 年月日      | 名称                 | 場所           | 概要                      |
|----------|--------------------|--------------|-------------------------|
| 22.10.04 | 社会福祉法人育心会打ち合わせ     | 松園第二ハイツ      | 研究採択を伝え、松園における今後の進め方を検討 |
| 22.10.06 | 第2グループ会議           | 地域連携センター会議室  | グループのキックオフ              |
| 22.10.06 | 全体会議               | 地域連携センター会議室  | 全体のキックオフ                |
| 22.10.27 | 第6・7・8合同会議         | 地域連携センター会議室  | グループのキックオフ              |
| 22.10.28 | 第3グループ会議           | 地域連携センター会議室  | グループのキックオフ              |
| 22.10.28 | 第4グループ会議           | 社会福祉学部棟談話室   | グループのキックオフ              |
| 22.11.12 | フィールドの社会福祉協議会打ち合わせ | アイーナキャンパス学習室 | フィールド運営に関わる調整           |
| 22.11.17 | 宮古市社協川井支所打ち合わせ     | 宮古市社協川井支所    | 予備調査実施などフィールド運営に関わる調整   |
| 22.11.24 | 第4グループ会議           | 地域連携センター会議室  | 月次会議<br>(進捗状況確認と作業検討)   |
| 22.11.24 | 全体会議               | 地域連携センター会議室  | 月次会議<br>(進捗状況確認と作業検討)   |
| 22.11.24 | 第2グループ会議           | 地域連携センター会議室  | 月次会議<br>(進捗状況確認と作業検討)   |
| 22.11.24 | 第1グループ会議           | 地域連携センター会議室  | 月次会議<br>(進捗状況確認と作業検討)   |
| 22.11.24 | 第6・7・8合同会議         | 地域連携センター会議室  | 月次会議<br>(進捗状況確認と作業検討)   |
| 22.11.24 | 第3グループ会議           | 地域連携センター会議室  | 月次会議<br>(進捗状況確認と作業検討)   |
| 22.11.25 | 第5グループ会議           | 社会福祉学部談話室    | 月次会議<br>(進捗状況確認と作業検討)   |
| 22.12.13 | 松園地区住民懇談会          | 松園第二ハイツ      | 住民に対するプロジェクトの説明と協力依頼    |

|          |                      |             |                                  |
|----------|----------------------|-------------|----------------------------------|
| 22.12.15 | 滝座村民生児童委員協議会役員等へ説明   | 滝沢村公民館      | 民生委員協議会役員にプロジェクトを説明し協力依頼         |
| 22.12.16 | 第5グループ会議             | 地域連携センター会議室 | 月次会議<br>(進捗状況確認と作業検討)            |
| 22.12.20 | 第6.7. 8合同会議          | 地域連携センター会議室 | 月次会議<br>(進捗状況確認と作業検討)            |
| 22.12.20 | 第3グループ会議             | 地域連携センター会議室 | 月次会議<br>(進捗状況確認と作業検討)            |
| 22.12.20 | 第4グループ会議             | 社会福祉学部談話室   | 月次会議<br>(進捗状況確認と作業検討)            |
| 22.12.22 | 全体会議                 | アイーナキャンパス   | 月次会議<br>(進捗状況確認と作業検討)            |
| 22.12.20 | 第4グループ会議             | 社会福祉学部談話室   | 月次会議<br>(進捗状況確認と作業検討)            |
| 22.12.24 | 岩手県社会福祉協議会打ち合わせ      | アイーナキャンパス   | データ活用と連携体制について打ち合わせ              |
| 23.01.11 | 育心会打ち合わせ             | 松園第二ハイツ     | 松園地区での協力依頼体制について検討               |
| 23.01.12 | 第4グループ会議             | 社会福祉学部談話室   | 月次会議<br>(進捗状況確認と作業検討)            |
| 23.01.14 | 滝沢村社会福祉協議会打ち合わせ      | 滝沢村老人福祉センター | 今後の進め方検討                         |
| 23.01.18 | 学生ボランティアリーダー幹部打ち合わせ  | 談話室         | PJへの協力依頼                         |
| 23.01.18 | 学生ボランティアリーダー指導者打ち合わせ | 談話室         | PJへの協力依頼                         |
| 23.01.20 | 松園地区町内会長と打ち合わせ       | 活動センター      | 今後の進め方検討                         |
| 23.01.23 | 育心会新年会               | 松園第二ハイツ     | 住民・民生委員にPJへの協力依頼                 |
| 23.01.25 | 育心会                  | 松園第二ハイツ     | 情報環境整備に関する検討                     |
| 23.01.26 | 滝沢村民生委員協議会           | 滝沢村老人福祉センター | 民生委員協議会に今後の進め方説明、滝沢村・滝沢村社協と打ち合わせ |
| 23.01.26 | 松園プロジェクト説明           | 活動センター      | 北松園地区町内会にプロジェクト説明                |
| 23.01.27 | 滝沢村・社協打ち合わせ          | 滝沢村老人福祉センター | 独居高齢者を対象とした調査票検討                 |
| 23.02.03 | ヤマト運輸(株)松本氏打ち合わせ     | 社会福祉学部談話室   | 買い物弱者支援策に関する情報交換と検討              |
| 23.02.07 | 松園地区民生委員協議会で説明       | 活動センター      | 民生委員協議会で進め方説明                    |

|          |                 |              |                             |
|----------|-----------------|--------------|-----------------------------|
| 23.02.09 | 滝沢村民生委員協議会で説明   | ふるさと交流館      | 南部地区定例会議で調査実施方法を説明          |
| 23.02.10 | 滝沢村民生委員協議会で説明   | ふるさと交流館      | 北部地区定例会議で調査実施方法を説明          |
| 23.02.16 | 滝沢村民生委員協議会で説明   | ふるさと交流館      | 中部地区定例会議で調査実施方法を説明          |
| 23.02.18 | 第5グループ会議        | アイーナキャンパス    | 月次会議<br>(進捗状況確認と作業検討)       |
| 23.02.18 | 第4グループ会議        | アイーナキャンパス    | 月次会議<br>(進捗状況確認と作業検討)       |
| 23.02.18 | 青森県社会福祉協議会打ち合わせ | アイーナキャンパス    | 夜間休日コールセンターに関する検討           |
| 23.02.23 | 宮古市社協川井支所打ち合わせ  | 川井支所         | 送迎に関するサービス開発の検討             |
| 23.02.23 | 松園地区関与者打ち合わせ    | 松園第二ハイツ      | プロジェクトの進め方に関する検討と合意形成       |
| 23.02.24 | 第4グループ会議        | アイーナキャンパス    | 関与者を交えた研究会<br>(進捗状況確認と作業検討) |
| 23.02.24 | ボランティアセンター      | ボランティアセンター   | ボランティアマッチングシステム実験と評価        |
| 23.02.28 | 全体会議            | 地連プレゼンルーム    | 月次会議<br>(進捗状況確認と作業検討)       |
| 23.02.28 | 第2・3合同会議        | 地連プレゼンルーム    | 月次会議<br>(進捗状況確認と作業検討)       |
| 23.03.02 | ボランティアセンター      | ボランティアセンター   | 協働に関する説明会                   |
| 23.03.02 | 第3グループ会議        | 社会福祉学部学科長室   | 指標と調査票に関する検討                |
| 23.03.03 | 桜城地区打ち合わせ       | 桜城地区老人福祉センター | 桜城地区4者打ち合わせ                 |
| 23.03.07 | 桜城地区打ち合わせ       | 桜城地区老人福祉センター | 桜城地区ケア会議にて説明                |
| 23.03.09 | 滝沢地区民生委員協議会     | ふるさと交流館      | 民生委員協議会中部地区定例会議にてミニワークショップ  |
| 23.03.09 | 滝沢地区民生委員協議会     | 老人福祉センター     | 民生委員協議会南部地区定例会議にてミニワークショップ  |
| 23.03.10 | 滝沢地区民生委員協議会     | 勤労青少年ホーム     | 民生委員協議会北部地区定例会議にてミニワークショップ  |

#### 4. 研究開発成果の活用・展開に向けた準備状況

プロジェクト終了後の持続可能な方策の検討を行う研究グループを運営し、前記したように、地域の多様な関与者との研究会を2回開催し、問題意識の共有化と協力意向の醸成を図った。

また、各フィールドの取り組みの特性に合致した生活支援サービス提供先との連携を視野に入れつつプロジェクトを進めている。具体的には、みまもりのサブセンターを依頼している滝沢地区では学生ボランティアセンター、桜城地区では包括支援センター、松園地区では社会福祉法人育心会のそれぞれの事業との連携である。

#### 5. 研究開発実施体制

##### (1) 研究代表者及びその率いるグループ

- ① リーダー名：小川晃子（岩手県立大学・社会福祉学部・教授）
- ② 実施項目・プロジェクト実施方針の提示

##### (2) 高齢者自立支援策研究グループ

- ① リーダー名：直井道子（桜美林大学大学院・老年学研究科・教授）
- ② 実施項目：高齢者の心理・自立度の変化測定・高齢者の自立支援策の仮説検証

##### (3) コミュニティ支援策研究グループ

- ① リーダー名：狩野 徹（岩手県立大学・社会福祉学部福祉経営学科・教授）
- ② 実施項目：コミュニティの変化測定・コミュニティ支援方策の仮説検証

##### (4) ICTを活用した高齢者の生活支援策研究グループ

- ① リーダー名：佐々木淳（岩手県立大学・ソフトウェア情報学部・准教授）
- ② 実施項目：高齢者の生活支援に適応するICT活用方策の提案・システム設計・実証実験・評価

##### (5) 持続可能なサービス提供のあり方研究グループ

- ① リーダー名：細田重憲（岩手県立大学・社会福祉学部・准教授）
- ② 実施項目：公的・民間サービスの継続可能性の検証・制度設計

##### (6) 過疎・高齢化進展地域における生活支援策研究グループ

- ① リーダー名：元田良孝（岩手県立大学・総合政策学部・教授）
- ② 実施項目：地域特性に応じた支援策検討

##### (7) 中核都市における生活支援策研究グループ

- ① リーダー名：植田眞弘（岩手県立大学宮古短期大学部・教授）
- ② 実施項目：地域特性に応じた支援策検討

##### (8) 郊外スプロール市域における生活支援策研究グループ

- ① リーダー名：植田眞弘（岩手県立大学宮古短期大学部・教授）
- ② 実施項目：地域特性に応じた支援策検討

## 6. 研究開発実施者

| 氏名    | 所属                        | 役職(身分)           | 実施項目                          | 分野            |
|-------|---------------------------|------------------|-------------------------------|---------------|
| 小川晃子  | 岩手県立大学社会福祉学部・地域連携本部       | 教授・副本部長          | 統括／生活支援型コミュニティづくり仮説構築・検証・評価   | 学(人社)社会福祉福祉情報 |
| 直井道子  | 桜美林大学大学院老年学研究科            | 教授               | 高齢者自立支援方策の仮説構築・検証・評価          | 学(人社)社会老年学    |
| 狩野 徹  | 岩手県立大学社会福祉学部福祉経営学科        | 学科長・教授           | コミュニティ支援策仮説構築・検証・評価           | 学(自)／(人社)福祉工学 |
| 佐々木淳  | 岩手県立大学ソフトウェア情報学部          | 准教授              | ICTを活用した高齢者の生活支援方策の仮説構築・検証・評価 | 学(自)ソフトウェア情報学 |
| 細田重憲  | 岩手県立大学社会福祉学部              | 准教授              | 持続可能なサービス提供のあり方に関する仮説構築・検証・評価 | 学(人社)社会福祉福祉行政 |
| 元田良孝  | 岩手県立大学総合政策学部              | 教授               | 過疎・高齢化進展地域における生活支援策の検証        | 学(自／人社)交通工学   |
| 植田眞弘  | 岩手県立大学 宮古短期大学部盛岡市まちづくり研究所 | 学部長・教授<br>所長     | 都市における生活支援策の検証                | 学(人社)経営学      |
| 黒澤美枝  | 岩手県精神保健福祉センター             | センター長<br>精神保健指定医 | 自殺予防の観点からみた高齢者の自立支援策の検証       | 学(自)精神医学      |
| 石川みち子 | 岩手県立大学看護学部                | 教授               | 看護支援からみた高齢者の自立支援策の検証          | 学(自／人社)老年看護学  |
| 千田睦美  | 岩手県立大学看護学部                | 講師               | 看護支援からみた高齢者の自立支援策の検証          | 学(自／人社)老年看護学  |
| 山田幸恵  | 岩手県立大学社会福祉学部福祉臨床学科        | 講師               | 心理支援からみた高齢者自立支援策の仮説構築・検証・評価   | 学(人社)心理学      |



|       |                  |       |  |          |
|-------|------------------|-------|--|----------|
| 庄司知恵子 | 岩手県立大学社会福祉学部     | 講師    | 社会学の視点からみたコミュニティ支援策の仮説構築・検証・評価             | 学（人社）社会学 |
| 山田敬三  | 岩手県立大学ソフトウェア情報学部 | 講師    | ICTを活用した高齢者の生活支援方策の提案と要求仕様の明確化、実証実験・評価への協力 | 学（自）     |
| 高木正則  | 岩手県立大学ソフトウェア情報学部 | 講師    | 上記要求仕様に基づくプロトタイプシステムの設計・構築及び実証実験・評価        | 学（自）     |
| 宮城好郎  | 岩手県立大学社会福祉学部     | 教授    | 持続可能なサービス提供のありかた（とくに民間サービス）の仮説構築・検証・評価     | 学（人社）    |
| 宇佐美誠史 | 岩手県立大学総合政策学部     | 助手    | 過疎・高齢化進展地域における生活支援策の検証（特に都市計画の視点から）        | 学（人社）    |
| 佐藤俊治  | 盛岡市まちづくり研究所      | 共同研究員 | 都市における生活支援策の検証                             | 学（人社）    |
| 上森貞行  | 盛岡市まちづくり研究所      | 共同研究員 | 都市における生活支援策の検証                             | 学（人社）    |

7. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

(1) シンポジウム等

なし

(2) 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

| 年月日      | 名称                   | 場所        | 参加人数 | 概要                     |
|----------|----------------------|-----------|------|------------------------|
| 22.11.26 | 24時間在宅ケアフォーラム        | 盛岡市中央公民館  | 150  | 予防型コミュニティ形成プロジェクト      |
| 22.12.03 | 岩手県医療福祉情報化コンソーシアム学習会 | アイーナキャンパス | 20   | ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり |

(3) 論文発表 (国内誌 1 件、国際誌 0 件)

小川晃子・狩野徹・佐々木淳他『ICTを活用した高齢者支援型コミュニティづくり』  
プロジェクト実践報告 岩手県立大学社会福祉学部紀要13(2), 2010年12月

(4) 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表) ”

- ①招待講演 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)
- ②口頭講演 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)
- ③ポスター発表 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)

(5) 新聞報道・投稿、受賞等

①新聞報道・投稿

22.09.25 「小川教授の究が採択」 もりおかタイムス

22.10.19 「高齢者守る情報通信 生活支援システム化 買い物代行や外出支援」  
岩手日報

22.12.15 「過疎とお年寄り一地域にあった支え合いを」 朝日新聞 (全国版)

②受賞 岩手県立大学学長賞 (共同)

③その他

22.01.20 「どう防ぐ高齢者の孤立」 NHK 「おぼんですいわて」

22.01.24 「どう防ぐ高齢者の孤立」 NHK 「おはよういわて」 (東北6県)

22.03.14 「いわて希望の力—高齢者の見守り」 IBC 「岩手県政番組」 ※  
※震災により放映延期

(6) 特許出願

- ①国内出願 (0 件)
- ②海外出願 (0 件)